

第1学年体育科学習指導案

日 時 令和7年9月4日(木)
第5校時 13:25～14:10
学校名 日野市立平山小学校
対 象 1 年 2 組 31名
わかさ学級1年 3名
会 場 大会議室
授業者 T1 乙津京香 (教諭)
T1 鈴木一葉 (教諭)

1 単元名 「バランス発明家になろう！」

A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動遊び

2 単元の目標

| 知識及び運動 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|--|
| <p>ア 体ほぐしの運動遊びでは、手軽な運動遊びを行い、心と体の変化に気付いたりみんなで関わり合ったりすることができるようにする。</p> <p>イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとる動きをすることができるようにする。</p> | <p>体をほぐしたり、多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。</p> | <p>運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達と協力して準備や片付けをすることができるようにする。</p> |

3 単元の評価規準

| ア 知識・運動 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| <p>①体ほぐしの運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。</p> <p>②多様な動きをつくる運動遊びの行い方について知り、運動に取り組んでいる。</p> | <p>①体ほぐしの運動遊びで心や体の変化に気付いたり、工夫したり、楽しい運動を友達に伝えたりしている。</p> <p>②楽しくできる多様な動きをつくる運動遊びを選んでいる。</p> <p>③多様な動きをつくる運動遊びで友達のよい動きを見付けたり、楽しい遊び方を友達に伝えたりしている。</p> | <p>①多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。</p> <p>②順番やきまりを守り、友達と仲よく運動している。</p> <p>③友達と協力して用具の準備や片付けをしようとしている。</p> |

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）体育
第 1 学年及び第 2 学年 A 体づくり運動

- (1) 次の運動の楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすること。
- ア 体ほぐしの運動遊びでは、手軽な運動遊びを行い、心と体の変化に気付いたり、みんなに関わり合ったりすること。
- イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをすること。
- (2) 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすること。

を受けて設定した。また、小学校学習指導要領解説体育編（平成 29 年 7 月）の内容を踏まえ、本単元における児童に味わわせたい運動の特性を以下のようにまとめた。

○一般的特性

【体ほぐしの運動遊び】

- ・子供自身の「できた」を積み重ねられる運動である。
- ・体を動かす楽しさや心地良さを味わうことにより、自分や友達の体の状態に気付き、体の調子を整えたり、友達と交流したりする運動である。

【多様な動きをつくる運動遊び】

- ・遊びの中で自然に体を動かすことができるため、楽しみながら取り組むことができる運動である。
- ・片足で立つ、ジャンプして着地する、回転するなど、基本的な動きを組み合わせでできる活動が多く、運動能力の基礎作りに有効な運動である。
- ・様々な動きを経験させることで、身体適応力や運動感覚が向上する運動である。
- ・運動遊びの楽しさを経験することで、運動への肯定的態度や継続的な運動習慣につなげることができる運動である。

○児童から見た特性

- ・楽しみながら体を動かすことで、体の基本的な動きを培うことができる運動である。
- ・友達との交流を通して、1 人ではできない体の動きに気付くことができる運動である。
- ・友達との関わり合いによって、動きの幅を広げることができたときに楽しさを感じられる運動である。
- ・動きや活動を工夫することで、運動内容を発展させることができ、意欲の向上につながる運動である。

(2) 児童観

本学級の児童は、ダンスやゲームなど、音楽や遊びの要素がある活動に積極的に参加している。休み時間には9割以上の児童が校庭で遊んでおり、特に鬼遊びや固定遊具を使った遊びが人気である。

1学期の体づくり運動では、用具を操作する運動遊びを行い、日常生活では行われない動きを楽しんでいた。自分で遊び方を考えたり、工夫したりする児童と、「できないからやりたくない」と諦めてしまう児童に二極化した。

また、不安や理解が不十分なことがあると、行動に移せない児童もあり、友達と協力して何かを成し遂げることが難しい状況にある児童もいる。

本単元は、集団で行う運動が中心となる。学級全員だけでなく、わかくさ学級の児童とも交流しながら、体ほぐしの運動遊びや体のバランスをとる運動遊びに取り組んでいく。

この活動を通して、児童が「みんなで協力し、助け合いながら体を動かす楽しさ」を体験できるようになることを目指す。

(3) 教材観

「体づくりの運動遊び」は、「体ほぐしの運動遊び」及び「多様な動きをつくる運動遊び」で構成され、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようになる学習である。

本単元では、まずは「体ほぐしの運動遊び」に取り組み、自分の体の状態に気付き、体の調子を整えたり、仲間と豊かに交流したりすることで、緊張した場を和ませ、友達とのコミュニケーションを円滑に行うことができるようなアイスブレイク的な位置付けとして考えた。続いて行う「多様な動きをつくる運動遊び」では、担任が例示した遊び方の模倣から始め、最終的には自ら工夫して生み出した姿勢に取り組み、伸び伸びと体を動かす心地よさを十分に味わわせたい。

この単元全体を通して、様々な動きを経験することで、体を動かすことがより好きになり、楽しさを味わえるようになることを大切にしたい。

5 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① 全体を把握するためのT1二人制

普段とは異なるT1の二人体制をとることで、児童一人一人の困り感や、児童の遊び方における工夫点などの児童の変化をより多く見取れる体制であると考えた。児童の挑戦していることや変化を全体に共有することで、他の児童の課題解決につなげたり、挑戦している遊び方を完成に近付けたりできるように促していく。また、児童の良さを伝えることによって、多様な動きをつくることに自信をもつことができるように支援していく。

特別支援学級の児童だけでなく、本学級にもバランス運動遊びや表現リズム遊びが苦手な児童がいる。そのため、特別支援教育的視点を取り入れ、児童のニーズに合った指導を行えるようにする。

(2) 対話・協働

① 新たな遊び方を見付ける「発明タイム」

発明タイムとは、第1時と第2時で学んだ体のバランスを取る運動遊びを通して、自分オリジナルのバランス遊びを考え、実施する時間である。発明タイムでは、自分でバランス遊びを発明していく時間と友達がつくったバランス遊びを見る時間がある。発明する時間では、児童一人一人が身体全体を使って、どのようなバランス遊びができるかを考え、想像した動きに挑戦する。近くの友達の遊びを参考にしたり、「どうやってやったの。」、「どうしたら同じ動きができるの。」などの対話を大切にしたりしていきたい。また、子供たちのチャレンジ精神やアイデアを引き出すことを大切にしたい。他の児童の動きを見る時間では、発明する時間で教師が見取った手本の動きや参考になる動きを行なった児童を選び、全員の前で発表してもらう。児童とどのようなところが良かったかを話し合い、また参考にすべきところを伝えることによって、より自分の発明にのめり込むことができると考えた。

② 遊び方を発展させるための写真の活用

毎時間、児童の遊び方を写真に撮り、次時の始めに児童に見せて紹介する。めあてにつながるバランス遊びを提示することで、それを基に児童がより発展した遊び方を探すことにつながり、意欲的に学習に取り組む姿勢も引き出せると考えた。

6 単元の指導計画と評価計画(全5時間)

| 時間 | | 1 | 2 | 3（本時） | 4 | 5 |
|---------|------------|--|---|--|--|-------------|
| 問題解決の流れ | | つかむ | | | 広げる | |
| ねらい | | ・体ほぐしの運動遊びについて知り、友達と楽しく行う。 ・体のバランスをとる運動遊びについて知り、挑戦する。 | | | 体ほぐしの運動遊び・体のバランスをとる運動遊びに積極的に取り組み、遊び方を工夫して、みんなで楽しく遊ぶ。 | |
| 主な学習活動 | | 1 場の準備 2 集合・整列・挨拶 3 本時の見通しをもつ 4 準備運動・補助運動 | | | | |
| | | 5 体や気持ちの状態の確認 6 体ほぐし運動遊び ・せーので立てるかな ○体ほぐし運動遊びの行い方を知る。 7 体のバランスをとる運動遊び ・だるまさんがふーらふら（脚でバランスを取る遊び中心） ○体のバランスをとる運動遊びの行い方を知る。 ○体のバランスをとる運動遊びをする。 | 5 場の準備 6 体ほぐし運動遊び ・せーので立てるかな 7 体のバランスをとる運動遊び ・だるまさんがふーらふら（お尻等の足以外の部分でバランスを取る遊び中心） ○体のバランスをとる運動遊びをする。 | 5 場の準備 6 体ほぐし運動遊び ・せーので立てるかな 7 体のバランスをとる運動遊び ・だるまさんがふーらふら 8 発明タイム ・既習の遊び方を基に、新たな遊び方をつくる。 9 新しいバランスの遊び方の紹介(児童又は担任) ○友達の良い動きを見ついたり、考えたりしたことを伝える。 10 発明タイム② ○見たり紹介されたりした友達の遊び方を基に、新たな遊び方をつくる。 | | |
| | | 振り返り → 整理運動 → 健康観察 → 挨拶 → 用具の片付け | | | | |
| | | | | | | |
| 評価（方法） | ア 知・技 | ② (行動観察) | ① (行動観察) | | | ① (行動観察) |
| | イ 思・判・表 | | ② (行動観察) | ③ (行動観察) | ① (行動観察) | |
| | ウ 主 | | | ② (行動観察) | ① (行動観察) | ③ (行動観察) |

7 本時（全5時間中の第3時）

（1）本時の目標

◎積極的に体ほぐしの運動遊び・体のバランスをとる運動遊びに取り組もうとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

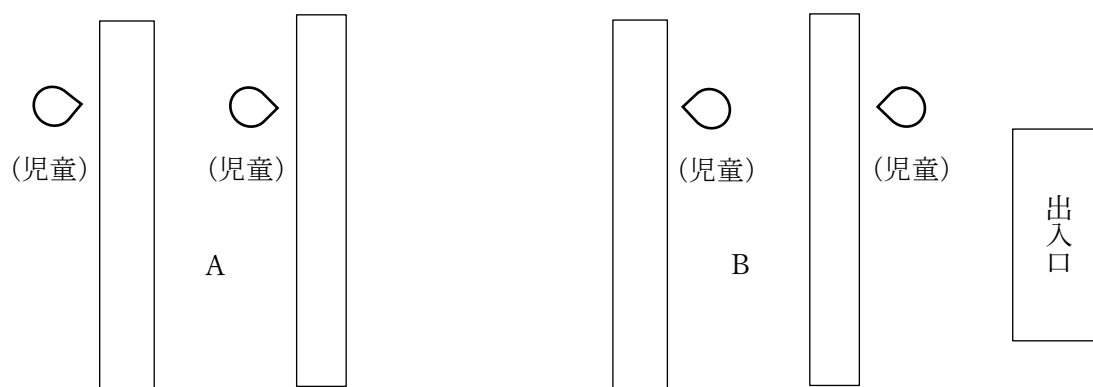
○友達の良い動きを見付けたり、動きのポイントを伝えたりしている。

（思考力・判断力・表現力等）

（2）本時の展開

| | 学習内容・学習活動 | ○指導上の留意点や配慮事項 | 評価規準 |
|------------|---|---|--|
| 導入 7分 | 1 場の準備 2 集合、整列、挨拶 3 本時の見通し <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">バランス発明家になろう！</div> 4 準備運動 ・「ジャンボリミッキー」 5 補助運動 | ○服装など安全確認をする。 ○前時のよい学びを共有し、本時の学習に活かせるようにする。 ○親しみのある曲を用い、楽しく体を動かせるように、次の動きの声かけをする。 | |
| 展開 28分 | 6 体ほぐしの運動遊び ・「せーので立てるかな」 7 体のバランスをとる運動遊び ・「だるまさんがふーらふら」 8 発明タイム ・体(腰やお尻等)を使って発明するグループ赤と脚や手を使って発明するグループ白に分ける。 9 新しい遊び方の紹介 (児童又は担任) 10 発明タイム② | ○人数や形(向かい合わせや背中合わせ)を変え、「挑戦したい」と思う工夫をする。 ○苦手感のある児童も参加できるように、簡単な技を提示する。 ○新たなバランスの遊び方を見つけた児童を認める声掛けをする。 ○2名の教員がそれぞれグループに分かれることで、子供の遊び方をより細かく見取れるようにする。 ○提示された遊び方や他の遊び方を発展させた遊びに挑戦できるような声掛けをする。 | ウー② イー③ |
| まとめ 10分 | 11 振り返り ・遊び方について気付いたこと ・友達の良かったところ 12 整理運動 13 健康観察、挨拶 14 片付け | ○気付いた児童も、良かったところとして取り上げられた児童も、認められた意識をもてるよう、褒めることで価値付ける。 ○次回への見通しをもつ。 | |

(3) 場の設定



(4) 授業観察の視点

- ・ T 1 二人制は、研究主題の手だてとして有効であったか。(個別最適・課題解決①)
- ・ 発明タイムは、子どもの対話を生み出し、遊び方をつくりだすことにつながっていたか。(対話・協働②)